

様式 C - 7 - 1

平成 20 年度科学研究費補助金実績報告書（研究実績報告書）

1. 機関番号 3 | 2 | 6 | 9 | 2 2. 研究機関名 東京工科大学

3. 研究種目名 萌芽研究 4. 研究期間 平成 19 年度 ~ 平成 20 年度

5. 課題番号 1 | 9 | 6 | 5 | 0 | 0 | 4 | 5

6. 研究課題名 漫才の 笑い に潜むオープンコミュニケーション構造の記述とモデル化

7. 研究代表者

研究者番号	研究代表者名	所属部局名	職名
2   0   3   5   0   5   0   6	フリガナ イタ、ヒトシ 飯田, 仁	メディア学部	教授

8. 研究分担者(所属研究機関名については、研究代表者の所属研究機関と異なる場合のみ記入すること。)

研究者番号	研究分担者名	所属研究機関名・部局名	職名
3   0   4   2   4   3   1   0	フリガナ 岡本、雅史 岡本, 雅史	片柳研究所	客員准教授
2   0   3   8   6   7   7   5	フリガナ 大庭、真人 大庭, 真人	片柳研究所	嘱託研究員
1   0   4   5   4   1   4   1	フリガナ 榎本、美香 榎本, 美香	メディア学部	助教
	フリガナ		
	フリガナ		

9. 研究実績の概要

下欄には、当該年度に実施した研究の成果について、その具体的内容、意義、重要性等を、交付申請書に記載した「研究の目的」、「研究実施計画」に照らし、600字~800字で、できるだけ分かりやすく記述すること。また、国立情報学研究所でデータベース化するため、図、グラフ等は記載しないこと。

平成20年度は本研究課題の最終年度として(1)~(3)の3点に取り組んだ。

(1) 査読付き論文誌への投稿：前年度から継続して行った漫才対話の分析により、オープンコミュニケーションとしての漫才対話を持つ外部指向性の実現が演者のマルチモーダルな指向性の統合と乖離に基づくことが明らかとなった。その成果は日本知能情報ファジィ学会誌である『知能と情報』に採択され、出版されることとなった。

(2) 国際ワークショップの開催：本研究課題における問題関心を内外の多くの研究者と共有するため、20年6月に北海道において国際ワークショップとして、LIBM'08 (First International Workshop on Laughter in Interaction and Body Movement) を開催した。ここでは分担者である大庭と榎本がそれぞれ本研究課題に関する報告を行ったほか、海外から2名の招待講演者を迎え、全部で8件の一般発表を集める運びとなり、内外で好評を博した。また、本研究課題に関心を持つ多数の研究者との知己を得て、次年度からの新しいプロジェクトに発展する端緒ともなったことも特筆しておく。

(3) 一般向けチュートリアルでの広報活動：分担者岡本は、20年7月に東京工業大学で開かれた第57回人工知能セミナー「多人数インタラクションの分析手法」において、本研究課題において得られた漫才対話のマルチモーダル分析の手法と知見についてチュートリアル講演を行った。これにより、本研究課題に対する一般層への関心を集めることができた。

成果の公表を見合わせる必要がある場合は、その理由及び差し控え期間等を記入した調書(A4判縦長横書1枚)を添付すること。

10. キーワード

(1) 漫才 (2) 笑い (3) オープンコミュニケーション  
 (4) モデル化 (5) (6)  
 (7) (8) (裏面に続く)

11. 研究発表（平成20年度の研究成果）

〔雑誌論文〕 計（2）件

著者名	論文標題				
岡本雅史 他3名	対話型教示エージェントモデル構築に向けた漫才対話のマルチモーダル分析				
雑誌名	査読の有無	巻	発行年		最初と最後の頁
知能と情報 (日本知能情報ファジィ学会誌)	有	20	2	0	08 pp.526-539

著者名	論文標題				
岡本雅史	会話構造理解のための分析単位 実践：漫才対話のマルチモーダル分析				
雑誌名	査読の有無	巻	発行年		最初と最後の頁
人工知能学会誌	無	23	2	0	08 pp.552-558

〔学会発表〕計（2）件

発表者名	発表標題	
OHBA, Masato 他3名	Tittering and Laughing: a Case of Manzai Audience	
学会等名	発表年月日	発表場所
1st International Workshop on Laughter in Interaction and Body Movement (LIBM'08)	2008年6月10日	旭川コンベンションビューロー

発表者名	発表標題	
ENOMOTO, Mika 他3名	Laughter around the End of Storytelling in Multi-Party Interaction	
学会等名	発表年月日	発表場所
1st International Workshop on Laughter in Interaction and Body Movement (LIBM'08)	2008年6月10日	旭川コンベンションビューロー

〔図書〕 計（0）件

著者名	出版社		
書名	発行年	総ページ数	

12. 研究成果による産業財産権の出願・取得状況

〔出願〕 計（0）件

産業財産権の名称	発明者	権利者	産業財産権の種類、番号	出願年月日	国内・外国の別

〔取得〕 計（0）件

産業財産権の名称	発明者	権利者	産業財産権の種類、番号	取得年月日	国内・外国の別

13. 備考

研究者又は所属研究機関が作成した研究内容又は研究成果に関するwebページがある場合は、URLを記載すること。

LIBM'08 Webページ： <a href="http://www.teu.ac.jp/iap/LIBM08/">http://www.teu.ac.jp/iap/LIBM08/</a> 平成20年度最終報告会Webページ： <a href="http://www.teu.ac.jp/iap/MOC/">http://www.teu.ac.jp/iap/MOC/</a>
---